

居村浩平 Kohei Imura

「ひとまねのかたち」

会場 旧・秋田中通一郵便局 **D**

秋田市中通三丁目3-4

日時 11.1[日]–28[土]の金土日・祝

[金] 13:00–19:00

[土日・祝] 10:00–17:00

【作家コメント】 昨年度SPACE LABOにて行われたパフォーマンス《目が合った人の真似をする》を発展させ、今年は《ひとまねのかたち》と題する

美術展覧会を開催します。期間中はワークショップ、トークなどを予定しています。

「人真似」とは他人の行動をまねることや、動物が人間のしぐさをまねること。秋田、福島、北海道でリサーチした狩猟採集民の動植物に対する共感性や、伝統工芸職人の物体との関係性、また暗黒舞踏を生んだ土方翼の憑依という現象から「ふるまいのかたち」を制作しました。私はこのレジデンスを通じて、自身の言動や身体がいつのまにか変化してきたように思います。おそらく、この「ふるまい」が私にとっての大事な作品であり、一番に見せたいものではあるのですが、生活の中のふとした瞬間にあるもので、意識して見せることはできません。私がどのようなふるまいを会得したのか、またご覧になった皆さま自身がどのようなふるまいを会得できるのかを想像しながら鑑賞していただけると幸いです。

パフォーマンス 「帰還する」 11.3[火・祝] 10:00–10:30 ※定員制

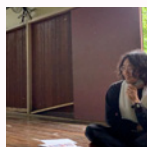
ワークショップ 「ものづくりのかたち」 11.3[火・祝] 10:30–12:00 ※定員制

関連企画 「行為以前# 11」(パフォーマンス) 11.21[土]、23[月・祝] 10:00–17:00

(オンライン) ※会場でもご覧いただけます 11.22[日] 14:00–17:00

「狩猟のかたち」(トーク) 11.27[金] 19:30–21:00

※詳しくは下記よりご覧ください
<https://www.artscenter-akita.jp/archives/16753>



居村浩平 1992年、高知生まれ。成安造形大学卒業後、東京の美術館に勤務したのち、福島県西会津町に移住。震災後に設置された3000基以上のリアルタイム線量測定システムを写真に収める活動を行いながら、東北地方の土着信仰や動植物をリサーチし、文化的周辺へと関心を広げている。近年では、意識と行為の間にあるような即興パフォーマンスや、生活と表現活動が地続きになるような「ふるまい」を制作している。



昨年度の企画
「目が合った人の真似をする」

EXHIBITION SPACE LABO

2020

11.1 sun



11.28 sat

2020年度 企画公開

2019年度 レジデンス賞 受賞者展

入場無料

秋田市文化創造館プレ事業

乾杯練習
KANPAI RENSHU 2020

秋田のまちの余白/空間を、「新しい価値を生み出す実験的な場所」として見立て、実現したい企画を公募する「SPACE LABO」。2020年度、応募総数33の中から選ばれた4企画と、2019年度のレジデンス賞受賞者による新作が、秋田市中心市街地やマスメディアを舞台に公開中！新しい表現に出会いにまちへ繰り出してみてください！

秋田のまちの余白が舞台になる。

2020年度 企画公開 ※最終審査

最終審査を経て選ばれたグランプリ受賞者は、秋田市文化創造館(2021年3月開館予定)でも企画を公開する予定です。

結果発表:2020年11月28日[土]

内田聖良 Seira Uchida

「余白書店 公開査定会@ABSラジオ」

会場 ABSラジオ「まちなかSESSIONエキマイク」番組内企画

日時 11.4[水]、25[水]14:00- 15分程度

【作家コメント】 ネット古書店《余白書店》は、いつもは値引きの対象となる書き込み、シミなどのある本を、本の余白に読者が創作した「余白本」として価値づけています。今回は「余白本」を音だけで楽しむ新しい試みです。余白書店 店長の内田が、井関裕貴氏(ABSアナウンサー)を店員にスカウト! 「まちなかSESSIONエキマイク」番組内で、リスナーから「余白本」を募集し、ふたりで査定を行います。声と想像力でさぐる「本のおく」にある読者の物語。その探求の旅にぜひご参加ください!



関連企画 「余白書店フェア」

11.4[水]、25[水]、27[金] 15:00-18:30

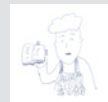
11.28[土] 10:00-12:00

会場 フォンテAKITA 6階

情報発信コーナー内 カウンター付近

※<<余白書店>>の取り組みについては下記よりご覧ください

<https://yohaku-shoten.tumblr.com/post/632018923522523136/yohakufair>



内田聖良 コンテンポラリーベンダー。美術家。「余白」をつくる「余白工事人」と名乗る。2015年情報科学芸術大学院大学(IAMAS)修了、2009年武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。古書の書き込みやシミを読者の創造と捉えその価値を流通させる「余白書店」店主。インターネット以後の冗談やフィクションの実験の場「パーチャル浜」(YouTubeチャンネル)運営。

船山哲郎 Tetsuro Funayama

「新しい茶の湯のためのスタディ」

会場 秋田オーパ 1F吹き抜け (A) 秋田市千秋久保田町4-2

日時 パネル・映像展示: 11.1[日]-28[土] 10:00-20:00

【作家コメント】 昨今の新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、人の対面に大きな制約が設けられた。日本の伝統文化「茶の湯」もその影響を受けている。一方で、茶の湯の作法を読み解くと、感染防止のための「新しい生活様式」との共通点が散見される。本企画では、新しい生活様式、そして茶の湯の作法と空間性を読み解き、今実践すべき「新しい茶の湯」のための茶室を制作し、そのあり方を探るスタディとしての茶会を公共空間でとり行う。

協賛:秋田プライウッド株式会社



茶会 11.1[日]、15[日]、28[土]

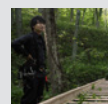
①14:00-②14:30-③15:00-

④15:30-⑤16:00-⑥16:30- ※各回1名

※完全予約制

参加希望者は下記よりご予約ください

<https://forms.gle/WZjjPouDp3nt4y7n8>



船山哲郎 秋田県能代市生まれ。美術家/研究者。建築の分野に軸足を置きながら、周辺環境に対して新たな体験を創出する屋外インスタレーションを主たる表現とし、東北・北海道の過疎地域を中心に作品を展開している。また、映像メディアの空間特性に着目し、自らの空間作品の映像制作を通して、空間を切り取る撮影手法を模索している。

松田朕佳 Chika Matsuda、雨宮澤 Miwo Amemiya

「865mm x 1578mmの7連サイネージと15m x 7.5mのトピコの壁を水に浮かべる」

会場 ・JR秋田駅 改札上サイネージ (B)

・駅ビル「トピコ」壁面プロジェクション (B) 秋田市中通七丁目1-2

日時 11.1[日]-28[土]

【作家コメント】 普段何気なく見ている駅ビルの壁。「大きいなあ」と思う。この15m x 7.5mの長方形を理解するために、駅ビルの実寸を別の素材で作ってみることにした。ビーチで使えそうな材料を集め、大きな長方形の筏に組み立てる。何日もかかる重労働である。そもそもビルの壁を作るのも簡単ではなかっただろう。見慣れたものが別の素材や用途に置き換わったとき、その元となったもの見方も変わるのではないだろうか。もしかしたら、全く別のものにもなれる可能性を、すべてのものは持っているのかもしれない。

サイネージ 始発から終点まで随時 プロジェクション ①17:30- ②18:00- ③18:30- ④19:00-



松田朕佳 現代美術家。2010年アリゾナ大学大学院Fine Arts修了。国内外のレジデンスを経て現在長野県在住。主に立体造形を制作。

雨宮澤 ファシリテーター、プロセス&コミュニケーションデザイナー。個人と組織の変容プロセスの伴走者。千葉県在住。

大脇響子 Kyoko Owaki、齋藤涼花 Suzuka Saito

「人付き合いの在り方に革新を」

会場 フォンテAKITA 6F情報発信コーナー (C) 秋田市中通二丁目8-1

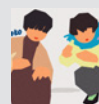
日時 展示: 11.1[日]-28[土] 10:00-18:30 (最終日 -15:00)

【作家コメント】 同じ人間関係の中にいると、その中での常識に縛られて頭が凝り固まってしまう。ずっと関係を続けていかななくてもよい流動的な人間関係があってもよいのではないか。ただ自分の意見を言い合えて、刺激がもらえる場が欲しい。そこでこの企画を提案しました。ターゲットは秋田市内の中高大生。会場に設置した部屋の中に参加者2名が入り、設定された話題について話し合い、最後に答えを出します。その後、もっと人と話したいと感じた人は広場の中央に集まり互いに話題を共有しよう試みます。

ワークショップ 11.1[日]、7[土]、8[日]、15[日]、21[土]、22[日]、23[月]祝

①13:15-14:00(受付13:00-) ②15:15-16:00(受付15:00-)

※中高大生対象 ※定員制・受付は当日会場にて先着順



大脇響子 秋田公立美術大学1年。普段言っていることの真逆を言ってもいい。嘘ばかりでもいい。ただただ気軽に遊びに来て、なんでも。大歓迎。

齋藤涼花 秋田公立美術大学1年。周りの目を気にせず、話したいことを話しましょう。人付き合いはひとつじゃない。私たちと、皆さんにとって新しい気づきを得られるような居場所をつくりたい。



Map



- ① 秋田オーバ 〒010-0874 秋田市千秋久保田町4-2
- ② JR秋田駅・駅ビル「トピコ」 〒010-8530 秋田市中通七丁目1-2
- ③ フォンテAKITA 〒010-0001 秋田市中通二丁目8-1
- ④ 旧・秋田中通一郵便局 〒010-0001 秋田市中通三丁目3-4
- ⑤ 中通三丁目内空き店舗 〒010-0001 秋田市中通三丁目3-1

「秋田市文化創造館」とは

2021年3月に開館する新しい文化施設。プレ事業“乾杯ノ練習”では、同館開館に先駆け、新しい視点に出会う事業や、多様な活動を支援する事業を、秋田市内の各所で展開しています。

www.2020akita.jp [@2020akita.jp](https://twitter.com/2020akita.jp)

お問い合わせ

NPO法人アーツセンターあきた

TEL 018-888-8137(受付時間:平日9:00-17:00) Email info@artscenter-akita.jp

主催 秋田市

協力 ABSラジオ、東日本旅客鉄道株式会社 秋田支社、株式会社OPA(2020年度 企画公開)

協力 東北物産株式会社(2019年度 レジデンス賞 受賞者展)

企画 NPO法人 アーツセンターあきた

2019年度 レジデンス賞 受賞者展

虻川彩花 Ayaka Abukawa

「蛻変 ぜいへん」

会場 中通三丁目内空き店舗(旧・秋田中通一郵便局隣) ⑤
秋田市中通三丁目3-1

日時 11.1[日]-28[土]の金土日・祝
[金]13:00-19:00
[土日・祝]10:00-17:00



昨年度の企画
「秋田から始まるファッション〜個人ブティックを訪ねて〜」

[作家コメント]昨年度の展示「秋田から始まるファッション〜個人ブティックを訪ねて〜」では、秋田の個人ブティックのリサーチから始まり、最終的には3名の服にまつわる個人的なテキストを試着室内に展示する作品を制作した。そして、その作品をきっかけに、変化すること、変化できないことに着目し、変わりゆくものを見つめ方を考える個人プロジェクトを発足、今作を制作するにあたった。今作のタイトル「蛻変」とは蟬の脱皮を表す。日本において蟬は7日間で死を迎える儚さや諸行無常の象徴として語られてきたと言えるだろう。だが、蛻変する様子は成長を繰り返して日々を生き抜くポジティブな面や、果敢に変化に挑んでゆく側面もあるのではないだろうか。私たちは生きている間に何度でも生まれ変わる事ができる。今作ではこの地に関わり生きてきた人たちの息遣いや“これから”を感じさせるような展示を目指したい。

展示内作品「The pupal voice」

来場者が会場内に設置された紙に「願い」や「変わりたいこと」などを書いて他の来場者とコミュニケーションをとる作品も展示します。是非ご参加いただけますと幸いです。



虻川彩花

秋田市生まれ秋田市育ち。秋田公立美術大学在学中より、人の記憶をテーマに作品作りに取り組む。

2011年 秋田県高校総合美術展デザイン部門推奨

2014年 Art seed Akita・アートおおまち参加 鑄造作品出展 だるまワークショップ、ツアー担当

2015年 安西剛「事象の再発見」th-read参加

2015年 岩井優「習慣のとりこ-踊り、食べ、排便する。」参加

2017年 秋田公立美術大学(ビジュアルアーツ専攻)卒業

2019年 SPACE LABO参加「秋田から始まるファッション」でレジデンス賞受賞